

音の アート

岩倉市
シンボルロード

通信

'96/07/15

no.

1

発行/岩倉市シンボルロード「音のアート」設置委員会
問い合わせ/岩倉市建設部都市計画課

岩倉市シンボルロード「音のアート」設置委員会では、より多くの方に「音のアート」を楽しんでいただくために、本号より「音のアート通信」を発行することになりました。5号までの予定で「音のアート」に関するいろいろな情報をお届けします。

音のアートとは？

岩倉市内を南北に走る新柳通線。岩倉市では、この道路を市のシンボルロードとするために整備を進めています。そのシンボルロード沿いに最近、4つの見慣れないものができたことをご存じの方も多でしょう。その見慣れないものが「音のアート」と呼ばれている美術作品です。

「音のアート」の制作を進めてきたのは、設置委員とワーキンググループと呼ばれる2つの組織で、そこには美術や音楽の専門家の方以外に地元の方も参加しています。設置委員とワーキンググループの主な仕事は、作品を制作して頂く作家の方を選び、シンボルロードにふさわしい作品を作り上げていくことです。昨年度は8人の作家の方をノミネートし、4人(組)の方の案を選びました。

作家の方には2つの条件をもとに「音のアート」を提案、制作して頂きました。

1つは、「音」。岩倉市のまちづくりにおける音楽への取り組み方を少し広げて考え、音を感じさせるもの、音が鳴るものなど「音」をキーワードにしてもらいました。

もう1つは「コミュニティ」。すなわち、地元の方と協力したり、地元の方のことを考えて作ってもらいました。「音のアート」は、ただ道に置かれているだけでなく、好きになったり、大切にしたいのです。

平成8年度も昨年度と同様な手法で、新たに4つの作品を制作・設置する予定です。



かがみのくによろこそ
関本孝治



風鈴の家
PHスタジオ

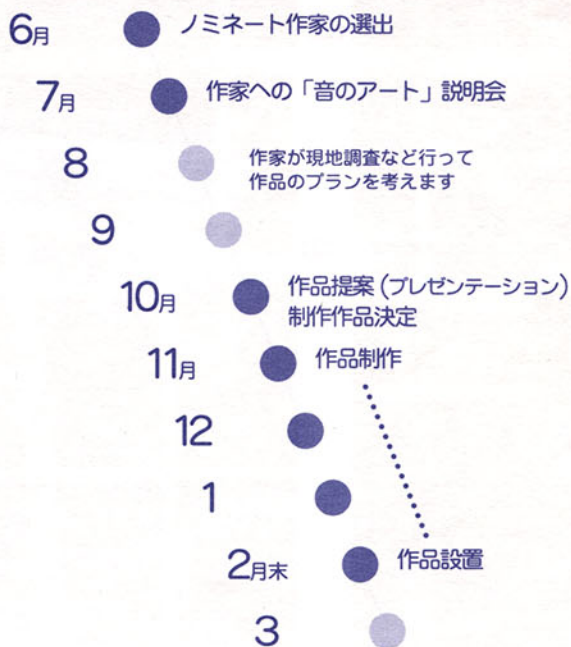


未来の思い出
島袋道浩



音響の台座IX
濱坂 渉

スケジュール



作品制作の過程で、市民の皆さんには様々な形でご協力をお願いしたり、特定のプログラムへの参加を募集したりすることがあります。

IWAKURA VOICES

●昨年度「音のアート制作レポート」アンケートより

“行政からの一方的な要望等ではなく、ノミネート方式、会議も各方面からの集まりで、とても民主的な運営が何われ、岩倉にとってもとても良いことだと思いました。大勢の市民の方々が参加して作り上げていけたらと思います。”

岩倉市役所

N

A かがみのくにようこそ



B 風鈴の家

●スーパーマーケット



C 音響の台座・IX

●パチンコ



D 未来の思い出

●コンビニエンスストア

ユニー

至名古屋

A かがみのくにようこそ

関本幸治



ピカピカと鏡のように映る作品の足元の3カ所に小さな足跡がついています。それぞれの位置に立ってみると、自分が2人映ったり、1人だけだったり、全く映らなかったりします。黒いボタンを押してみると、“かがみよかがみよかがみさん……” 小さなこどもの声が聞こえてきます。

B 風鈴の家

PHスタジオ



扉があって、とうろうがあって、家がある。家の隣にはモクレンの木が植えられていて春先にはきれいな白い花を咲かせます。家の中に座ってみて下さい。屋根のすき間からは空が見えます。風が吹くと風鈴がなります。光の具合によっては7色のプリズムが映っているのも見えます。

C 音響の台座・IX

濱坂 渉



大きな石の真ん中には丸い穴が開いています。大人でも充分くぐることのできる大きさです。聞こえてくるものに注意しながら穴の中に頭を入れてみると、穴の中と外とは音の聞こえ方が違うことがわかりますか？

D 未来の思い出

鳥袋道浩



丸くてシンプルな台座は座るのにちょうどいい高さになっています。上に立ってみるとみんなから注目を浴びているような気もします。この台座の上にはある日突然何かが置かれます。以前はカラフルな鳥が置かれていました。次は何が置かれるでしょう。

音の アート

岩倉市
シンボルロード

通信

'96/10/01

no. 2

発行/岩倉市シンボルロード「音のアート」設置委員会
問い合わせ/岩倉市建設部都市計画課

アズビー・ブラウン

信じ難いかもしいが、音と光、即ち視覚と聴覚はとても似ている。ただ、周波数だけが違う。感覚が音の周波数にあっているとき、光の波長は受けられない。その逆も同様である。

では、記憶とは何だろう？私は『記憶の波』という理論、そして『記憶の器官』の存在を提案したい。

牛島達治 (うしじま・たつじ)

街の中にある音、例えば雨の音、風の音、鳥のさえずり、車の音、飛行機の音、工場の音、など、ノイズとして意識する事もなく通り過ぎてしまう、埋もれているいろいろな現象やそれにとまなう音。これらに気づいたとき、私たちは、日常的な時間の拡がりを獲得します。私は、聴く(発見する)ための装置を岩倉の街かどに設置することを提案いたします。

福田篤夫 (ふくだ・あつお)

アートをアート(音)で解く
「展覧会を企画・組織することは、ひとりのアーティストが自らの作品を創り上げる作業に等しく、展覧会そのものがひとつの作品」といえます。

山口良臣 (やまぐち・よしおみ)

田や畑の上に家が建ち、商店ができ、道が整備され、田園地帯は都市となり、田園の痕跡は、人々の記憶とともに都市の足もとに埋めこまれます。地下の水音が都市の記憶を呼び覚ます、そんなことを考えています。

『音のアート』作品制作 ノミネートアーティスト決定!

岩倉市シンボルロード『音のアート』設置委員会では、今年度の作品制作アーティスト候補として以下の8人を選出しました。10月7日(月)に各アーティストから作品提案を受け、10月14日(月)の審査会ではその中から4人の制作アーティストを正式に決定する予定です。

皆さんに“どんな『音のアート』を作りたいと思いますか”と質問してみました。

アキホ タタ

音には聞える音と聞えない音がある。聞える音は心地よいメロディとか不快な雑音である。私たちは聞えない音、想像の音に個々の音色、ファンタジアの音色があると思います。その音色を聞かせる彫刻を作りたい。

藤本由紀夫 (ふじもと・ゆきお)

「聞く」行為がとても創造的であると実感してから「聞く」ことを主題に表現してきました。岩倉のシンボルロードを歩いて、私の耳が一番興味を覚えたのは「自動車の音」でした。私はここに「耳」を置きたいと思います。

松本幹永 (まつもと・みきえい)

街の中には様々な“生活の音”があり、それらは街の変化に応じて消えてしまったり、人の記憶に残ったりします。こうした街の音=情景を刻印するような、木霊のようにそれらが選ってくるような作品をめざしています。

渡辺泰幸 (わたなべ・やすゆき)

作品に触れることにより音がでる。それは人と人が触れあうように、時間や場所そして「何か」によって変化し、形や素材本来のもつ音を受け入れるしかない。そうした音を体験し、「何か」を感じる「場」を制作したい。

『音のアート』作品提案 公開プレゼンテーションのお知らせ

日時：平成8年10月7日(月)
午前10時30分～午後3時20分(予定)
場所：岩倉市ふれあいセンター3階 視聴覚室

来る10月7日(月)午前10時30分～ふれあいセンター3階、視聴覚室において、上記で紹介したノミネート作家による公開プレゼンテーションを行います。それぞれのアーティストが考えた案を委員会に対して様々な手法で説明します。どなたでもご覧になれますので、是非お立ち寄り下さい。

※会場の都合で観覧者を制限する場合がありますのでご了承下さい。

※1名あたりの所要時間は約20分間で、午前11時50分～午後1時までは休憩となります。

岩倉市シンボルロード(新柳通線)



A

岩倉市役所

新柳町

県道岩倉西停車場線

ローリー

名鉄岩倉駅



●スーパーマーケット

コンビニエンスストア



●パチンコ

大地新町



●コンビニエンスストア

ユニー

秋原多気線

大地新町1

春日井・一宮線

B

C

D

E

大地町郷前

至名古屋



岩倉市シンボルロード
音のアート

平成8年度

作品設置予定場所

今年度は、図に示したA～Eの場所から最も適した場所を選び、4つの作品を設置する予定です。但し、景観や安全面を考慮して、それ以外の場所に設置する場合があります。



南半球のクリスマス

96年6月29日

去る6月29日(土)に、『未来の思い出』の制作アーティストである島袋道浩さん主催のパーティーが、シンボルロード上で行われました。真夏に行われる南半球でのクリスマスをイメージし、歩道の木々には飾り付けもされました。

パーティーの前には『風鈴の家』を制作したPHスタジオの風鈴教室も行われ、夕方頃からは歌を歌ったり、みんなで持ち寄った料理を楽しんだりして、参加した人たちの顔には笑顔が浮かんでいました。



音の アート

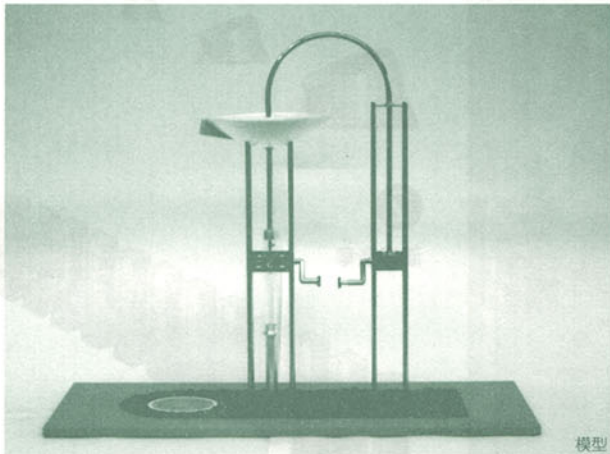
岩倉市
シンボルロード

通信

'96/11/15

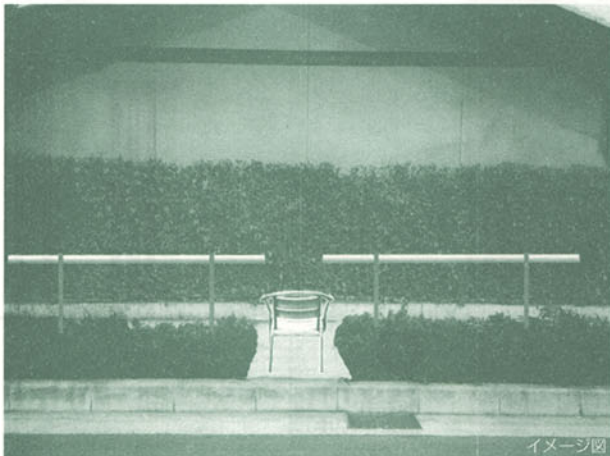
no. 3

発行/岩倉市シンボルロード「音のアート」設置委員会
問い合わせ/岩倉市建設部都市計画課



模型

「天と地を継ぐ装置」牛島達治/天空からの音と地中からの音をイヤホンを通じて両耳で聞くことができ、体の中で地球の中心から宇宙までがつながっているかのように感じることができます。

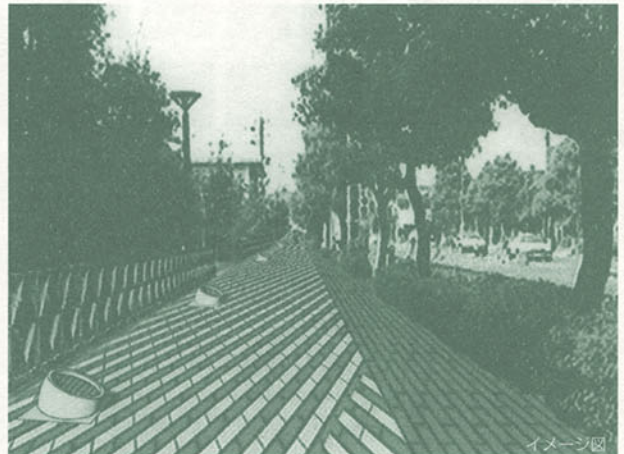


イメージ図

「岩倉の耳」藤本由紀夫/椅子に腰掛けて両側のパイプを耳にあてると、リズムのある車の音とパイプ自体の振動音とで不思議な聴覚体験ができます。また、目の前に広がる緑は視覚的にも面白い効果を与えます。

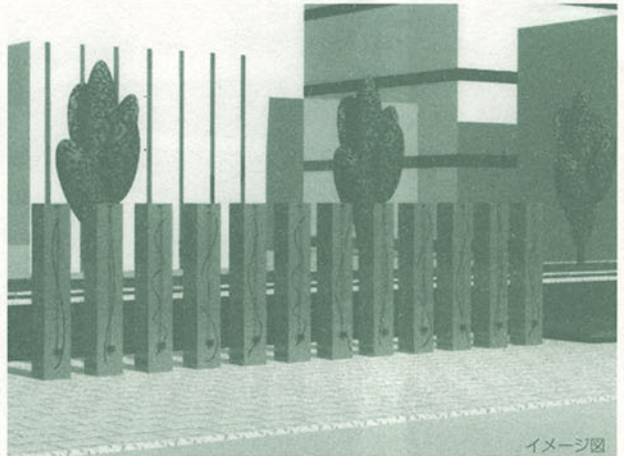
平成8年度『音のアート』 設置作品決定!

前号でもご紹介した通り、平成8年10月7日に行われた公開プレゼンテーションの後、10月14日の審査会での審査の結果、牛島達治氏、藤本由紀夫氏、山口良臣氏、渡辺泰幸氏の提案作品の制作・設置が決定しました。



イメージ図

「音の交線」山口良臣/街が都市化されていくにつれて、地下に封じ込められてしまうものがあります。「音の交線」は覆われてしまう水路に流れる水の水音を取り出して、岩倉の歴史を掘り起こすとともに、地下(=未知の世界)への興味を抱かせる作品です。



イメージ図

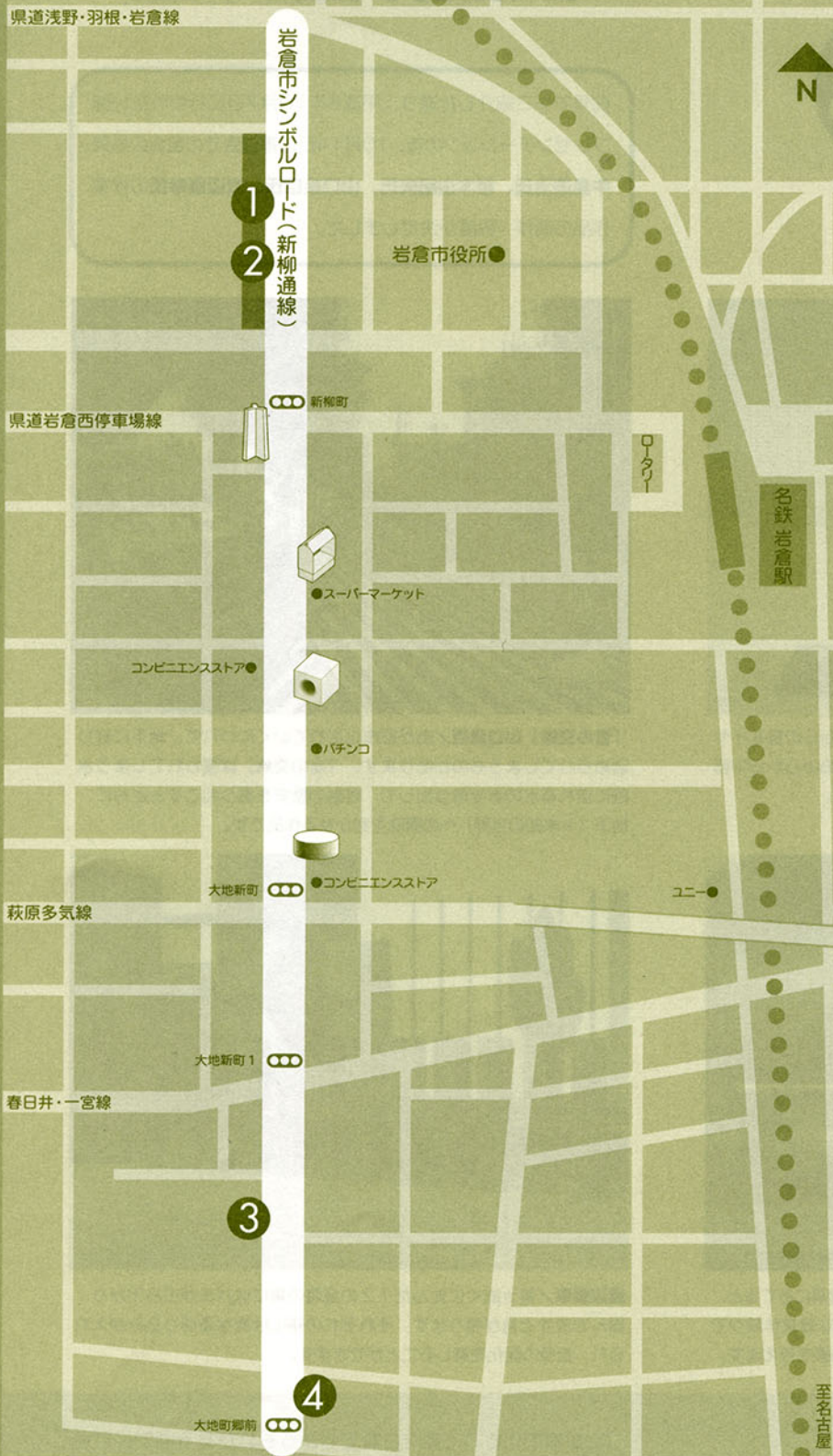
渡辺泰幸/真っ直ぐに並んだ12の金属の箱にはバチがぶら下がり、搦んで放すと音が鳴ります。それぞれの箱には異なる切り込みが入れられ、音色の変化を楽しむことができます。

各作品の主な選考理由は、

“人の知覚を拡張するようなスケール感があり、造形的にも美しく、見た人が音を聞きたくなるような作品”（牛島達治「天と地を継ぐ装置」）“信号によって生まれる環境音のリズムを聞くという発想が面白く、視覚、聴覚両面からの設置場所選定理由も明確。見た人に耳をあててみようかなと思わせる作品”（藤本由紀夫「岩倉の耳」）

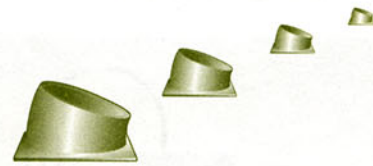
“街が都市化されて蓋をされてしまうものがある中で、岩倉の歴史を掘り起こすような作品。未知の世界があるような感じは面白いし、場所も良く考えている”（山口良臣「音の交線」）

“実際に体を動かして音を鳴らすことができ、視覚的にはリズム感が楽しめる音の作品であることが解りやすい”（渡辺泰幸）今後、細かな調整などしながらそれぞれの作品の制作を進め、2月末までに設置される予定です。

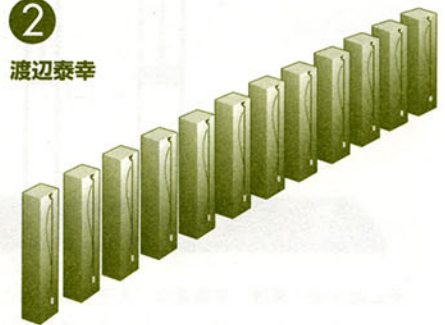


先に紹介した4点の作品は左図の場所に設置される予定です。

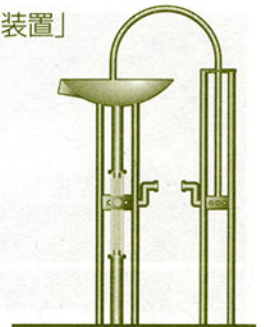
1
「音の交線」
山口良臣



2
渡辺泰幸



3
「天と地を継ぐ装置」
牛島達治



4
「岩倉の耳」
藤本由紀夫



IWAKURA VOICES

“全体として気に入っています” (20代、男性)
 “色がうるさくなくていい” (50代、女性)
 “材質が気に入っている” (女性)
 10/7実施、「音の아트」アンケートより。
 現在設置されている「音の아트」に関するご意見。

音の アート

岩倉市
シンボルロード

通信

'97/2/15

no. 4

発行/岩倉市シンボルロード「音のアート」設置委員会
問い合わせ/岩倉市建設部都市計画課

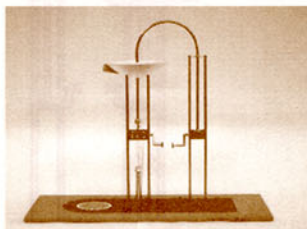
ワークショップ 参加者募集!

参加
無料

「音のアート」をより理解し、楽しみ、また実際に作品の制作に関わっていただくために、制作アーティスト、渡辺泰幸氏、牛島達治氏、藤本由紀夫氏によるワークショップを開催します。作品の制作アーティストと接することのできる貴重な機会ともなりますので、是非ご参加下さい。

「ワークショップ」とは、実際に参加して何かを作ったり、体験したりする場であると考えて下さい。

平成8年度「音のアート」設置予定作品



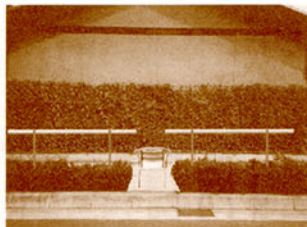
「天と地を繋ぐ装置」牛島達治

天空からの音と地中からの音をイヤホンを通じて両耳で聞くことができ、体の中で地球の中心から宇宙までがつながっているかのように感じることができます。



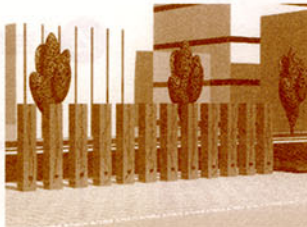
「音の交線」山口良臣

街が都市化されていくにつれて、地下に封じ込められてしまうものがあります。「音の交線」は覆われてしまう水路に流れる水の音を取り出して、岩倉の歴史を掘り起こすとともに、地下(=未知の世界)への興味を抱かせる作品です。



「岩倉の耳」藤本由紀夫

椅子に腰掛けて両側のパイプを耳にあてると、リズムのある車の音とパイプ自体の振動音とで不思議な聴覚体験ができます。また、目の前に広がる緑は視覚的にも面白い効果を与えます。



「無題」渡辺泰幸

真っ直ぐに並んだ12の金属の箱にはバチがぶら下がり、揺んで放すと音が鳴ります。それぞれの箱には異なる切り込みが入られ、音色の変化を楽しむことができます。

渡辺泰幸さんによるワークショップ 土を使って音の出るものを作ろう

土を使って音の出るもの(土鈴など)を作り、渡辺さんが焼いた後にお返しします。

開催日時 平成9年2月23日[日] 午後1時~4時
場所 → お問い合わせ下さい
参加対象 一般の方
募集人員 20名程度

牛島達治さんによるワークショップ 泥で遊ぼう

作品設置のために人力ボーリングマシーンで穴を掘り、掘った土に野菜や花の種を入れて、円筒形や球状など好きな形に固めて家に持ち帰ってもらいます。

開催日時 平成9年3月1日[土] 午後1時~4時
場所 作品「天と地を繋ぐ装置」設置予定場所
参加対象 一般の方
募集人員 20名程度
その他 ミニスコップ、ミニバケツ(空き缶や空きビンでも可。口の広いものが好ましい)、ビニール袋、おてふき等をご持参下さい。また、汚れてもいい格好でお越し下さい。

藤本由紀夫さんによるワークショップ 岩倉の耳—音を聞く楽しみ—

音という身近な現象についての基本的な知識を、簡単な実験により身に付けます。また、人間の聴覚の特徴を知ることにより、環境としての音とのつきあい方を考えます。

開催日時 平成9年3月16日[日] 午後1時~4時
場所 作品「岩倉の耳」設置場所及び室内会場
参加対象 一般の方。
特に小中学校の先生やコミュニティ活動をされている方に参加していただけたらより有効的なものとなります。
募集人員 20名程度

ワークショップのお問い合わせ・お申し込み

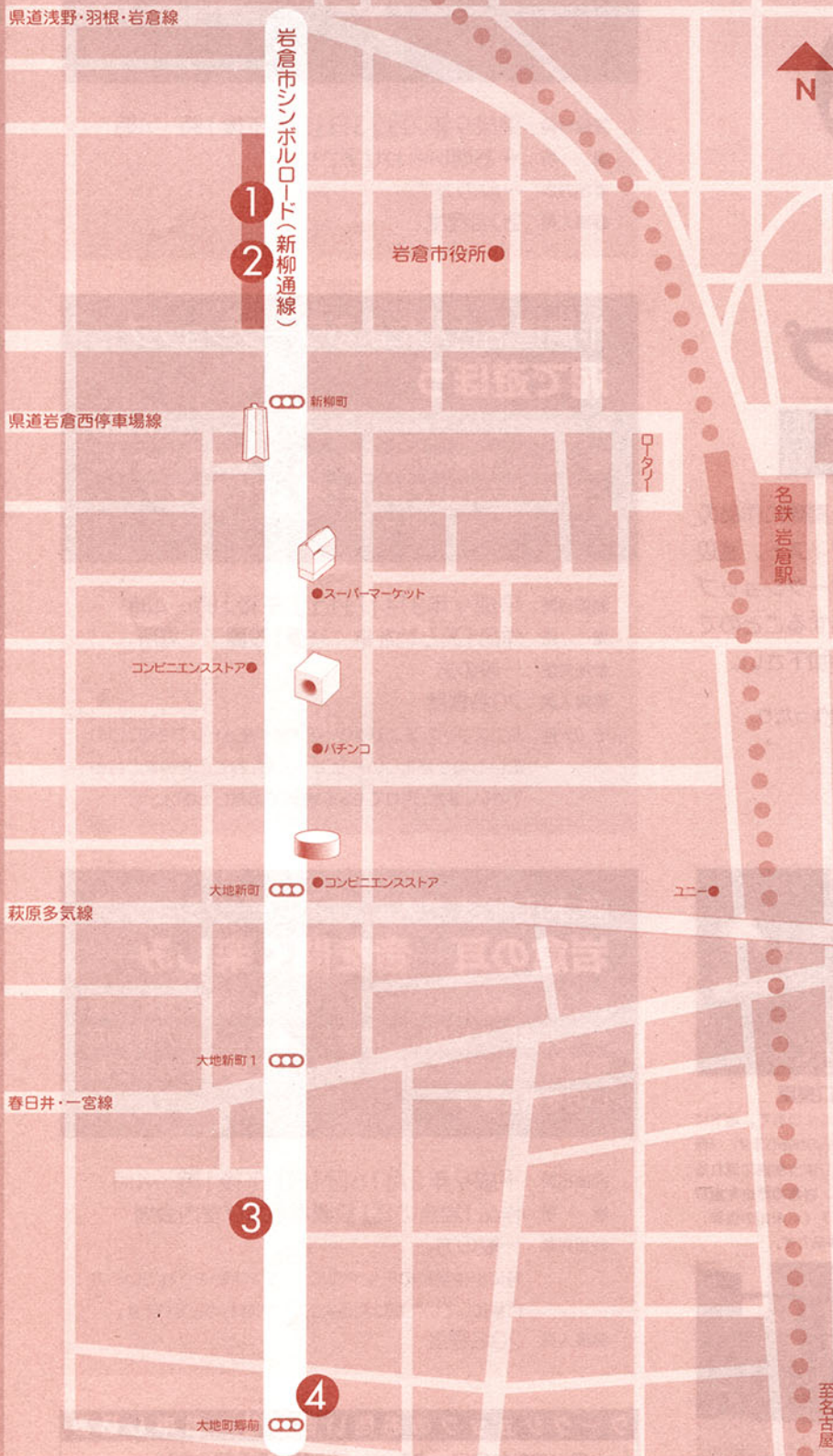
上のいずれかのワークショップに参加ご希望の方は、

■「音のアート」事務局(有)アートパラダイス
■TEL. 052-332-1151 FAX. 052-332-1433

までお申し込み下さい。

※複数のワークショップへの参加も可能です。

Map



先に紹介した4点の作品は、2月末頃までに左図の場所に設置される予定です。

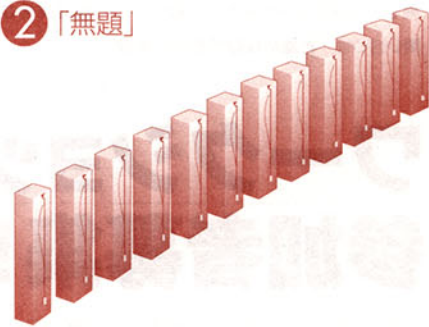
1 「音の交線」



山口良臣 (やまぐちよしおみ)

愛知県在住の山口さんは、名古屋市立大学芸術工学部で視覚情報デザインを教えています。「音の交線」は、地下に埋められてしまう水の音を地上に取り出して聞くことのできる作品です。

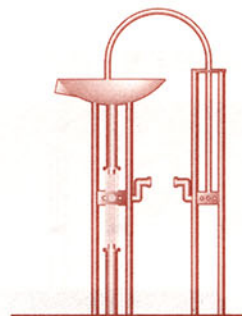
2 「無題」



渡辺泰幸 (わたなべやすゆき)

「無題」を制作する渡辺さんは岐阜県在住で、実際に手で触れて音を出すことのできる作品を作っています。今回設置される作品も手で触れて12種類の異なる音色を楽しむことができます。

3 「天と地を継ぐ装置」



牛島達治 (うしじまたつじ)

東京都に在住の牛島さんは、機械のようで機械ではない作品を数多く作ってきました。「天と地を継ぐ装置」もそんな雰囲気を持つ作品で、そのスケール感は宇宙までをも感じさせてくれます。

4 「岩倉の耳」



藤本由紀夫 (ふじもとゆきお)

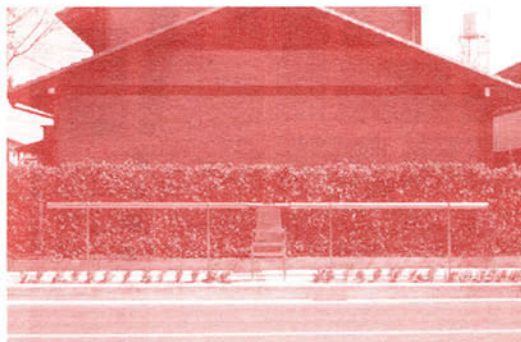
名古屋市出身で大阪市在住の藤本さんは、「聞く」ことにこだわって作品を制作しています。「岩倉の耳」についても、シンボルロード沿いの様々な音を調べながら作品制作を決定しました。

岩倉市シンボルロード

『音のアート』全8点が完成!

岩倉市シンボルロード『音のアート』の平成8年度作品の4点が3月に設置され、平成7年度作品と合わせて計8点全てが完成しました。これに伴い、シンボルロード上には2種類の『音のアート』案内板が設置され、更に『音のアート』について詳しい内容を網羅したマップも近日中に完成する予定です。『音のアート』の制作過程では、多くの方々に様々なご協力を頂きました。シンボルロードの財産として愛されていくことを願います。

平成8年度設置作品



藤本由紀夫「岩倉の耳」



牛島達治「天と地を繋ぐ装置」



渡辺泰幸「無題」



山口良臣「音の交線」

平成7年度設置作品



PHスタジオ「風鈴の家」



関本幸治「かがみのくちようこそ」



濱坂渉「音響の台座・IX」



島袋道浩「未来の思い出」



9/7/15

no.

5

通信

発行／岩倉市シンボルロード
「音のアート」設置委員会
問い合わせ／岩倉市建設部都市計画課

『音のアート制作レポート』開催のお知らせ

作品を制作したアーティストの生の声が開けるトークイベントです。
『音のアート』、また、まちとアートの関わりなどについて興味深いお話を聞くことができます。
是非ご参加下さい。

開催日時／平成9年5月3日(土・祝) 午後2時～5時

会場／岩倉市ふれあいセンター3階 視聴覚室

出演予定／牛島達治、藤本由紀夫、山口良臣、渡辺泰幸(『音のアート』制作アーティスト)

『音のアート』設置委員 他

音のアート
制作レポート

(参加無料)

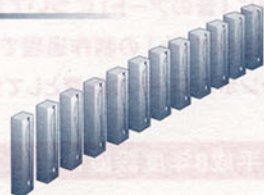


"iwakura symbol road" sound art

山口良臣
YAMAGUCHI, Yoshiomi
“音の交線” 1997年



渡辺泰幸
WATANABE, Yasuyuki
“無題” 1997年



関本幸治
SEKIMOTO, Koji
“かがみのくににようこそ” 1996年



PH スタジオ
PH STUDIO
“風鈴の家” 1996年



濱坂渉
HAMASAKA, Wataru
“音響の台座・IX” 1996年



島袋道浩
SHIMABUKU, Michihiro
“未来の思い出” 1996年



牛島達治
USHIJIMA, Tatsuji
“天と地を継ぐ装置” 1997年



藤本由紀夫
FUJIMOTO, Yukio
“岩倉の耳” 1997年



ワークショップが行われました

前号でお知らせした3名の作品制作アーティストによるワークショップが行われました。土をこねたり、穴を掘ったり、身近なものを使って音に関する実験も行いました。作品だけでなく、このようなことも全て含めて「音のアート」と言うことができます。



渡辺泰幸ワークショップ
1997.2.23
ヒューマンアイランド岩倉・集会室



牛島達治ワークショップ
1997.3.1
作品設置場所



藤本由紀夫ワークショップ
1997.3.16
岩倉市南小学校家庭科室

岩倉市シンボルロード「音のアート」

●制作レポート

まちとアート2

平成9年5月3日[土・祝]

14:00～17:00

岩倉市ふれあいセンター3階視聴覚室

主催／「音のアート」設置委員会

14:00～ あいさつ～「音のアート」について

「音のアート」設置委員会委員長
茂登山清文 [名古屋芸術大学助教授]

14:30～ 「音のアート」平成8年度設置作品について

山口良臣 “音の交線”
渡辺泰幸 “無題”
牛島達治 “天と地を継ぐ装置”
藤本由紀夫 “岩倉の耳”

15:50～ 休憩(10分)

16:00～ “いわくらとアート”(フリーディスカッション)

「音のアート」制作作家
山口良臣／渡辺泰幸／牛島達治／藤本由紀夫
ワーキンググループ
早瀬太七
河村妙子
コーディネーター
茂登山清文